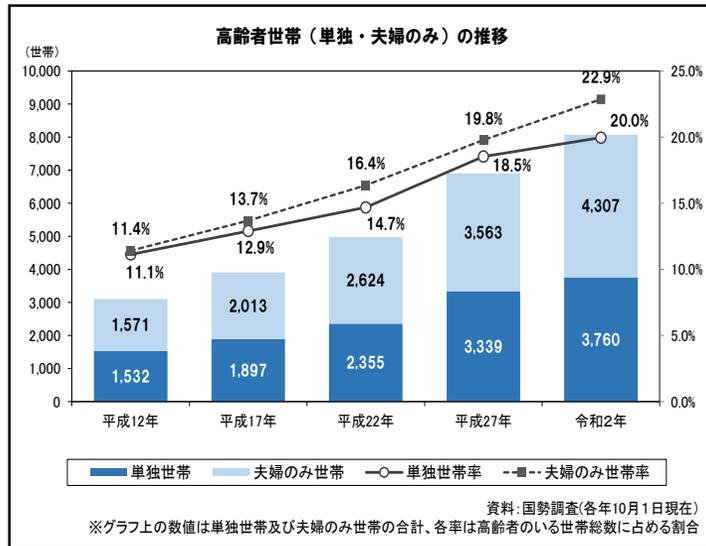


医療介護連携事業 「(仮称) クローバーカード」の作成に向けた検討

【検討に向けた背景】

◆近年、独居や高齢夫婦のみの世帯及び身寄りのない高齢者が増加している。緊急的な入院や介護サービスが必要になった時に、本人の病状や連絡先、希望する治療や介護への意向が確認できない場合、本人の希望に沿った支援を進めることが難しくなっている。このことは、特に医療従事者との情報交換会の場からも課題として上がっている。

◆もしもの時に自分の希望を家族や支援者に伝え共有できる仕組みが必要とされる。現状としてみらいノートや命のボタン等があるが、携帯をするものではないため、医療機関での確認が困難である。必要最小限の内容を記したカードを開発してお薬手帳等と一緒に携帯できるものを検討していく。

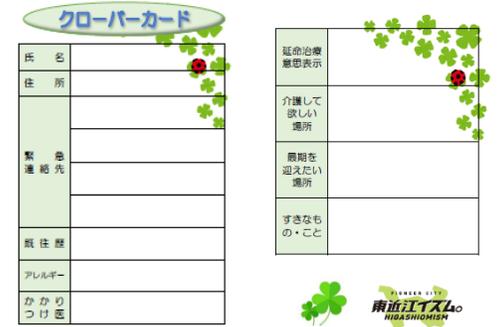


【取組案】

◆カードはお薬手帳に入る大きさ  
氏名、住所、緊急連絡先（家族、親族、ご近所）、既往症（持病）、アレルギー、かかりつけ医、延命治療の意思表示、介護してほしい場所、最期を迎えたい場所、好きなもの・こと等

◆みらいノートと連携した啓発

◆医療機関の他、救急隊との情報共有やカードを活用した連携方法の検討



【期待される効果】

◆今後の自分について我が事として考えるきっかけになる。

◆意思表示ができなくなった時でも本人の意思（サービスや制度の選択）が反映でき、自分らしく尊厳のある生き方ができる。

◆自分の希望を家族や支援者に伝え共有しておくことでより良い支援につながる。

◆もしものに備えておくことで本人、家族、支援機関の安心感、すなわち「三方よし」の仕組みができる。

地域包括ケアの推進における緊急時意思表示カード（仮称：クローバーカード）普及の効果について

（第9期東近江市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画）  
誰もが生きがいをもち、共に支え合いながら、安心して暮らし続けられるまちをつくる。

